

天野為之（あまのためゆき）（1/2）

～経済学の先駆者～

天野為之は万延元年（1860年）唐津藩主小笠原氏の医者、天野松庵あまのしょうあんの子として江戸の麻布にあった藩の桜田屋敷で生まれました。為之が9歳のとき父松庵は亡くなりました。江戸幕府を中心とした武士の社会が滅び、天皇を中心とした社会へ国の仕組みが大きく変わりつつあった明治元年（1868年）のことです。その翌年、母鏡子は為之を連れて唐津に帰ってきました。

明治4年に耐恒寮という学校が作られ、為之は選ばれて、この学校に入ることができました。11歳のときです。その英語教師として招かれたのは、のちに総理大臣にもなったこのとき18歳の高橋是清です。高橋の授業はすべて英語を使い、為之たち生徒にも日本語の使用を禁じました。この生徒の中から、辰野金吾や曾禰達蔵なども育っていきました。高橋は唐津を去り東京へ戻るとき為之の勉学への熱心さと、優れた才能を知って、東京での勉学をすすめました。

そこで母とともに為之は上京して東京開成学校、東京帝国大学で学びました。

更に為之は、自由民権の運動家たちと大隈重信に協力して東京専門学校（早稲田大学）を創立し、この大学の先生になりました。そして日本で初めて『経済原論』という本を明治19年（1886年）に著して、人々を驚かせました。

これは、日本の工業、農業、商業、また外国との貿易など江戸時代と違って、すべて自由に行い、国を豊かにするという新しい経済の仕組みを教えた本でした。為之の本はミルなど経済学者たちの影響をうけたもので、この年に最も多くの人々が買い求めたといわれています。

ミルなどの本は内容が難しく、当然英語で書かれています。為之が理解できたのは、少年時代に唐津の耐恒寮で高橋是清によって受けた、厳しい英語教育の基礎があったからと考えられています。

この後、明治政府は欧米諸国と対等になるために、産業を発達させ、日本は強国であることを世界に示すために、軍隊や武器を増やす「富国強兵政策」をとりました。これに反する国民の自由な意見は押さえ、その指導者も捕まえたりしました。

明治には「人間はみな自由平等であり、だれもが国の政治に参加する権利がある」という自由平等の考えが生れ、為之も同じ考えを持つようになりました。そうして明治23年（1890年）、「第1回帝国議会議員選挙」に唐津に帰って立候補しました。政府の富国強兵政策に反対し、自由を守ることを主張し唐津、東松浦の人々に支持され当選しました。

しかし、政府は第2回選挙を行い政府に反対する人々が当選しないように激しい選挙妨害を行ったため為之は落選し、この後政治ではなく、教育に力を注ぎました。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



天野 為之
(1860～1938)



耐恒寮跡
(旧唐津東高校)



「経済原論」
日本最初の経済の学問書

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

天野為之（あまのためゆき）（2/2）

～経済学の先駆者～

～1/2からつづく～

明治34年（1901年）、早稲田実業学校の創設に力を尽くし、翌明治35年、早稲田実業学校の第2代校長となりました。

為之は、学者として教育者として立派に成長しましたが、父亡き後、三味線を教え、一人で家族の生活を支え学資を出してくれたのは母鏡子でした。母が亡くなったとき、

たらちねの 母の患の 露なくば
此藻塩草 いかで生ふらん

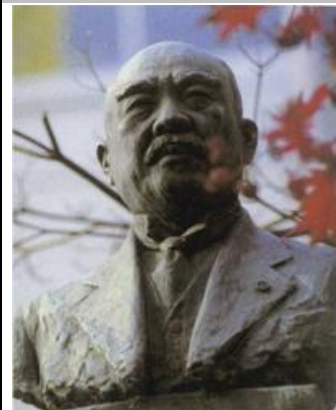
という歌を母に捧げました。母の働きによって私は勉強して学者となり、その母の恩がなければ、この本（藻塩草）を書くことができなかったでしょうという意味です。

大正4年（1915年）、早稲田大学の第2代目の学長になりますが、2年で学長を退き、その後は、早稲田実業学校の教育に専念しました。多くの優れた学者を教師として迎え入れ、この学校の教育に生涯を捧げ、昭和13年70歳で亡くなりました。

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



早稲田実業学校にある
天野為之の像

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html